

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,072	t-CO <sub>2</sub>
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,072

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス 総排出量	1,447	t-CO <sub>2</sub>	1,403	t-CO <sub>2</sub>	1,437	t-CO <sub>2</sub>	1,068	t-CO <sub>2</sub>	1,072	t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）			3.0	%	0.6	%	26.2	%	25.9	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの 排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりの みなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

2年前に比べては総排出量より数値はさがっているものの昨年より微増しているため、年間目標数値に向けて引き続き削減意識を持って行動する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。  
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー 省資源の行動実践 冷暖房	冷房温度 27℃ 暖房温度 21℃ 設定 定期的な室外機の清掃	設定温度を1日 3回確認する。 エアコンのリ ニューアルを2 025年までに 更新する	室外機に散水し、負荷を減らす 取り組みの実施、また1日3回 店内の温度を確認し、その都度 設定温度を変更
照明	使用していない場所（部屋）や、休憩時間外 の消灯を徹底する。高効率照明の推進 壁面照明2区画に分け時間帯をずらしての点 灯	外壁照明の点灯 時間を日没に合 わせて変更す る。	事務室など、人がいない間は消 灯、外壁照明パネルに日没表を 掲示し管理
照明	駐車場の蛍光灯についてLED化の導入を検 討、導入	2025年を目 標に蛍光灯から LED照明へ切 り替える。	2024年7月にLED化実施済
電力	デマンド監視装置の設置により電力量、ピー ク電力の削減	ピーク時間帯 (14:00~17: 00に関しては) 1時間に1度空 調の使用設定変 更を行う。	ピークタイム時のエアコンにつ いて調整を実施
環境教育	毎月1度のテナント会議において、各店舗の 電力使用量の報告と運用管理についての知識 向上と削減の提案		テナント会の議題に盛り込むこ とで意識付けを進める。

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO<sub>2</sub>

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

各テナント様に省電力案内について報告

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

外壁消灯時間を20時に変更